阿武隈山地の牧草地の変化と近年の我が国の畜産について

武　田　むつみ

戦後，国民の食生活の高度化などに伴ない日本各地で酪農及び肉牛生産が盛んになってきたが，これに従って家畜に粗飼料を供給し，運動場を提供する牧草地の必要性が認識され，政府その他の莫大な助成もあって，大規模な牧草地造成が行なわれるようになった。

1973．74年，修論作成の為，開析準平原として知られる阿武隈山地の牧草地を調査した（要旨は「お茶の水地理」第17号，pp．6～10）。本山地は旧藩のもとで馬産が盛んであったが，現在は頂稜部付近の緩斜面を中心に大規模な草地開発が進んできており，これらと里山の牧草地を飼料基盤とした畜産が発展してきている。そこで，1977年夏に再度山地を訪れ，牧草地とその開発状況の調査を多少試みたので，1974年と77年のスライドを使用しながらその変化を追い，また高い牛肉という国際的な，up to date な話題をまじえつゝ，日本の畜産の現状と今後の方向を探ってみたいと考えた。

飯舘牧場は山地北東部の老年地形地域に1973年から草地造成が行なわれてきた。うち草野，小宮の2団地は74年にはまがりなりにも肉牛の預託放牧が始まっていたが，大火山団地は道路建設の段階で，雑灌木材の急斜面が広がっているにすぎなかった。77年には大火山も80ha（17haは採草地）の草地造成がなされ，108頭の乳牛が放牧されていたが，草生は良好とはいえず，入牧頭数も不足気味である。また，麓山，日山など山地の残丘群中に広がる麓山団地は大家畜と中小家畜の有機的結合によりふん尿を草地に還元していく方式で，企業的大規模畜産経営を計画的に配置して一大畜産基地建設をめざすという計画であって，入植者への建売方式をとっており，面積は3152.6haに及ぶ。73年から草地開発が行なわれてきたが，まだ建設半ばの状態で，曲山地区では76年に酪農3戸，ブロイラー1戸，養豚2戸入植した。しかし，養豚は経営が成り立たず脱落，酪農家も暗中模索の現状とみられる。

以上の2例をはじめ，大規模草地の開発はいずれも地域農業，農民の状態と計画のビジョンのずれが大きく，計画のみ先走りの傾向が大きい。それが極端に表われた川内地区では，村民の間に畜産の意欲が乏しく，適切な農政が行なわれなかったこともあって165ha の人工草地がついに放棄され，内100haは総合観光的政策の中でゴルフ場，別荘地への転換が考えられているという。まず地域農業及び農民の現状把握とそれに対する方策が的確になされることが必要であろう。また計画地域の地形，地質にあった造成技術，開発方式が考えられるべきであり，機械一辺倒の造成はガリーや erosion の発生を招き，造成費も莫大なものとなる。あわせて草種の研究等も大いに重要な課題であろう。

一方，消費者の立場からみると，現在の牛肉価格は異常に高い。この問題は最近常に新聞紙面を賑わしているので省略するが，流通機構の合理化，輸入制度の検討等早急な解決が待たれている。

世界連邦や国際分業の思想が現実のものならともかく，現状ではできる限り食糧を安定的に供給確保する為に限られた国土資源を高度に利用して，自給可能なものは極力国内生産で充足するよう考えねばならない。畜産についていえば，自給飼料を確保し，土地に根ざしたなるべく low cost の国内

畜産の発展をはかり，国際競争力をつける努力が必要と思われる。草地の拡大には国土保全，他産業との競合，林地との競合など一朝一夕には解決できない問題が多く，慎重な対応が望まれる。

(1977. 11. 19)

外国製掛地図

地理教育の教材にフィリップ社製掛地図をおすすめします。

Philips World.	122×180(cm)	1:2400万	¥17,000
Asia.	178×180(cm)	1:600万	¥17,000
Africa.	173×119(cm)	1:750万	¥17,000
Europe	135×155(cm)	1:350万	¥17,000
Australia.	122×178(cm)	1:300万	¥17,000
N. America.	150×119(cm)	1:650万	¥17,000
S. America.	178×119(cm)	1:600万	¥17,000
British Isles.	178×122(cm)	1:75万	¥17,000

その他世界各国の地理書，地図帳・官製地図をとりそろえております。

地理書・地図専門輸入　内外交易株式会社

(150)　東京都渋谷区広尾一丁目7番3−107号　TEL 東京(03)400局2326